

そうじの力だより

VOL.208



支援事例紹介

家業から企業へ

〜場を整えることを通じて、ルールや手順を整える〜

香川県琴平町にある介護福祉用品の販売・レンタル業、(株)イシカワの環境整備のお手伝いをしています。

社員十人以下の小さな会社ですが、同社の課題は、何事にもルールや手順が曖昧で、「なんとなく」の積み重ねになっ

て、そこで、モノの整理・整頓を通して、ルールや手順が明確で、きちんと守られる風土を作ろうと、活動を進めています。

まずは、整理、つまり不要なものを捨てるのが肝要です。

当初の事務所内は、ごみごみとして狭苦しい状態でした。棚や壁がたくさんあるため、事務所内が分断され、部署間の連携も悪い状態でした。

不要な書類や備品などを処分することで、書棚が要らなくなりました。

そして、事務員の詰め所と営業部員の詰め所を仕切っていた壁もぶち抜いて、仕切りのない大部屋にすることができました。

店舗と事務所が一体化し、非常に広く明るくなると同時に、社内コミュニケーションも取りや

め取りや



仕切りがなく広々とした現在の事務所

すくなりました。

次に、倉庫内の整理です。

当初

は、住宅改修用の手すり材が、大量にストックされて

いました。材質も長さも太さも、いろいろ

なものがありまして、

これらを、何度

も整理し、そのたびに量が減っていきま

した。また、その手すりを階段や玄関などに据え付けるためのブラケット類も、当初はものすごい量がストックされてい

ました。ありとあらゆる種類があるので、実際に使うのは、ごく限られた定



必要なものだけになった手すり材



不要と判断し、処分した手すり材

実に、九割がたのブラケット類を捨てまし

た。こうして、ブラ

ケット類を処分したことで、取

り取っていた棚が不要になり、その棚を処分することで、大きなスペースが生まれまし

た。そのスペースに、今までの奥の方にぎゅうに詰め込まれていた車イスを配置することができま

した。これまでは、たくさんの福祉用品がありながら、山積みだったり奥に詰め込まれていたりして、どこに何があるのかも分からず、いざ使いたいと思っても使うことができないのが実態でした。

上述のとおり不要なものを捨てて、総量が減ったことで、視認性が良くなり、どこに何があるのかが、分かりや



当初あったブラケット類 (9割がた捨てた)



空いたスペースに並べられた車イス

すく、取り出しやすくなりました。

一方で、これまでは定期的な会議や勉強会がなく、ベクトル合わせや情報共有の場がなかったのですが、今では毎月、「営業会議」や「全体会議」を開催することで、社内の意思統一を図っています。

たとえば、営業会議など、倉庫にあるものを積極的にお客様にご提案しよう、と呼びかけること

で、倉庫在庫の有効活用が進みます。こうした様々な取り組みを通して、少しずつ、ルールや決め事、手順などが明確になり、それを守る風土ができてきました。

業務の抜け漏れや、言った言わないというような揉め事も少なくなり、物が滞りなく進むようになってきました。

同社では、ここ二年連続で、新卒社員を複数人採用しています。来年も既に、三名の新卒社員の入社が内定しています。

家業から企業への脱皮も、あともう一息のところまで来ています。(小早)

オンラインでの研修や講演を承ります。目的や対象者に応じて、時間や内容をカスタマイズできます。まずは[ホームページ](#)をご覧ください。



社長と社員で、要不要の判断をしていく



そうじの力コラム

職人芸を後世に残すには

〜燕三条若手職人探訪ツアーに参加して〜

先日、新潟県の燕三条の『若手職人探訪ツアー』に参加してきました。

燕三条地域は、金物や刃物の産業が盛んで、近年は「オープンファクトリー」と題して、「見せる工場」化を地域ぐるみで推進しています。

今回は、その一環で、手工業品の職人になるべく、燕三条地域に移住して修業をしている、若者三人の工房を見学するツアーに参加しました。

一人は、「和剃刀（かみそり）」の職人、Aさん。高校を卒業してすぐに、当地で親方に弟子入りし、和剃刀職人に。

和剃刀とは、刃の部分である鋼と刀身部分である地金を貼りつけて、鍛冶屋のように熱して叩きながら作る剃刀。日本刀並みの切れ味で、その姿からは妖艶なオーラさえ漂います。

二人目は、「ハンドパン」という楽器を制作する職人のBさん。

ハンドパンとは、空飛ぶ円盤のような打楽器。円形の鉄板を楕状に膨



ハンドパン職人のBさん



和剃刀職人のAさん

らませ、上下一対で合わせて作ります。欧州では人気のある楽器だそうですが、日本ではほとんど知られていません。最後は、キセル職人のCさん。喫煙者が肩身の狭い現代社会において、キセルを吸う人は、ごくわずか。当然、キセルを作る職人も、ほとんどいません。



キセル職人のCさん

そんな中でCさんは、大学院での考古学の研究を捨てて、キセル職人への道を選びました。

三人とも、作業に打ち込むその姿は、「カッコイイ！」の一言。こうした若者がいる限り、日本のモノづくりは、まだまだ捨てたもんじゃな、と感じます。

とはいえ、需要が少ないのも事実。単価は高いものの出荷量が少ないので、収入的には厳しいようです。こうした職人芸を後世に残していくためには、経済原則だけでは難しいのかもしれない。

一方、私はこうした工房に足を踏み入れると、やはり「整理・整頓」の観点で見えてきます。三つの工房とも、お世辞にも整理・整頓が出来ていると言えない環境でした。

働く環境をキレイに整えることも、職人芸を後世に残していく上で、大切なことだと思えます。（小早）

ツイッターで、『環境整備 一日一言』を毎日更新しています。ぜひフォローしてみてください！

編集後記

小市民 in 小豆島

小豆島と言えば、オリーブと『二十四の瞳』ですが、私はこれまで、小豆島に行ったことがありませんでした。

香川県への出張中に空いた中日に、思い立ってフェリーで小豆島に渡ってみました。

ところが、ノープランで足もなく、どこにどう行ったらいいのか分からず、うろろ。

何気なく乗ったタクシー料金が8,000円に達し、冷や汗。

のんびりくつろくはずの休日が、肝を冷やした休日になってしまいました。やはり旅は段取りが大事ですね。（小早）



飛鳥のつばやき

人名覚えられないマン

今年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に大ハマリし、聖地巡礼してきました。

学生時代「人物名が全然覚えられない」という理由で日本史の履修を諦めたのですが、ドラマを観ているうちに断片的な記憶や知識が繋がり、

「なんで日本史やらなかったんだ…！」と絶賛大後悔中。

ちなみに、代わりに履修した世界史ですが…えっ？カタカナ名？？〇〇2世だの3世だの、漢字に輪をかけて覚えられませんでした(^3^).



株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨く、
日本で唯一の研修会社

弊社は「そうじ＝環境整備」を通じ

た「企業風土改革」を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場検証を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を原則としますが、状況とご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。（全国対応）